

(9) 大学附属高等学校の運営総括

校長 今城 慰 作

2020 年度 年間聖句

「しかし、必要なことはただ一つだけである。」

ルカによる福音書 10 章 42 節

はじめに

2020 年度の生徒募集は、292 名の入学者を迎え定員（255 名）を超過し、8 クラス体制になりました。2 年連続で定員超過したため、教室が不足する状況となり、急遽多目的スペースとして改装を計画していた情報室を 2 教室仕様に代えて対応しました。また、特進コースの入学者が 34 名（例年は 20 名台）となりました。就学支援金の充実と共に、大学への進学実績や戦略的に広報したことが要因であると分析しています。さらに作り上げてきた校風は、教職員の日頃の教育活動の成果と言えるでしょう。野球部、サッカー部、吹奏楽部など部活動が全道大会へ進出し、成績を残してきていることも広報的には求心力になっています。

しかし、残念なことに、前年度 2 月から新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、4 月の始業礼拝の翌日から臨時休校となり、教育活動が停滞しました。クラブ活動も 3 年生の最後の大会が中止になりました。また、本校の総合体育館は密になるため全校生徒が集まる機会が作れず、全校礼拝のみならず、生徒会行事である学校祭、体育大会が中止となりました。教科の学習だけでなく、様々な行事や活動を通して人間関係や共同作業を学ぶことが、中等教育の教育活動であることを改めて考えさせられました。今後、この空白の期間がどのように影響を及ぼすのかは分かりません。

一方、本校では数年前から ICT 環境を整えていたため、休校期間もオンラインの活用を行うことができました。今後も、教育活動の充実のために、教職員が一体となって知恵を出し合いながら新たな時代へ対応をしていきます。

1. 「建学の精神」に基づくキリスト教教育について

学校教育目標は、「キリスト教の精神に根ざした他者と共に生きる自立した市民としての人格を育む」という言葉です。臨時休校により活動に制限がありましたが、北星局が中心となって、フィリピンへの教育支援（絵本、おもちゃなどを集めて送る）や、社会的な困窮者の食事支援のお手伝いなどを工夫して行いました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するために、自分たちが何を行うべきなのかを問いかけることで「自立した市民として」の責任をもった行動を示せたのではないかと思います。

週の初めに行う全校礼拝は、一度も行えませんでした。代わりに映像を使った礼拝や、5 分間の放送礼拝を行いました。放送礼拝では、今まで遠方の教会でメッセージを依頼できなかった牧師にも、データを送ってもらい編集をして流すことができました。

2. 学習指導及び生徒指導について

1) 学習

昨年度、ICT 推進委員会を中心として、校内に Wi-Fi 設備を整え、全員にタブレット PC を配布（リース契約）しました。教室に設置したモニターの活用と同時に、新たな授業の創造が始まりつつあります。臨時休校期間は、生徒の生活リズムを整えるため、オンラインを使ってまずはホームルームを模索しながら行いました。オンライン授業は、できる教員が無

理のない範囲で広め、全体で共有しました。このノウハウは、校外の研修会にも積極的に参加して効果的に活用できるように、今後の非常事態にも備え整えていきたいと思います。

試験前に各学年で「静かに自習する教室」「教え合う教室」などを設定した取組みが定着しつつあります。学校に残って学習をする生徒が増えてきました。

「英語指導を強化」するため、少人数での授業展開と北星学園大学の学生アシスタントによる英検の2次面接試験対策の支援をしてもらいました。英検の合格者は、この取組みを始めてから1.5倍に増えています。

特進コースでは、外部の施設を利用した勉強合宿の取組みを行ってきましたが、今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、中止しました。勉強合宿への取組みについては、政策予備費が適用されていましたが、政策予備費の終了に伴い、生徒負担が増えることが課題となっていました。次年度の実施にあたっては、より安価な施設を探すなど、生徒の負担を抑える方法を考えつつ、より効果的な指導方法を模索します。

2) 厚生・生活指導

毎年度6月に全校生徒でクリーン活動を行っていましたが、今年度は新型コロナウイルス感染予防のために中止しました。校舎は生徒会の厚生委員や吹奏楽部が主体となって、アルコール消毒や美化を行って来ました。

生活指導については、隣人を思いやる人間性を「育てる」ことを継承しつつ、展開してきました。生活指導部は、生徒との関係性を築きながら、一定のレベルまで積み上げてきました。特に朝の登校時に、生活指導部長が玄関のロビーでアルコール消毒液を持ち、生徒に消毒を意識付けてくれました。これによって意識は高まったと思います。生徒の特性に合わせた指導を行うという点で、担任やクラブ顧問がひとりで抱え込まずに、協力体制を構築できるようにシステムを整えることの必要性を感じました。新たな研修会の課題とします。

3) クラブ指導

コロナ禍にあって、高体連、高野連、高文連の大会が中止、もしくは例年と違った形での実施となりました。生徒によっては不完全燃焼で終えたものもあります。「強化指定クラブ」では、吹奏楽がアンサンブルコンクールで全道大会進出、サッカー部、男子バスケットボール部も全道大会へ進出しました。また、美術部、書道部も全道大会へ進出しています。例年、全国へ進出してきたフットサルチームは大会が実施されませんでした。クラブ活動は、教育活動の一つであり、人間形成を目的としていることを忘れずに、体罰や不適切な言動を決して行わない指導を徹底して研鑽していきたいと思います。

4) 進路指導

大学附属高校として、北星学園大学への指定校推薦枠100名を推薦できるように、大学のアドミッション・ポリシーも意識しつつ、大学の魅力を発信しました。コロナ禍にあって、遠隔で学科説明会を催してくださった大学の教職員の方々のご協力に感謝いたします。2021年度は北星学園大学へ82名の生徒が進学しました。特に文学部英文学科に推薦枠の10名の進学者を生み出したことは、目標としていたことです。「英語教育の充実」が実現できた一つの成果として捉えています。

次年度も引き続き、大学の出張講義やオープンキャンパスなどを活用し、1・2年生の早い段階で、進路選択を促す取組みを行いたいと考えています。

3. 教職員の資質向上について

夏期、冬期研修会に、外部の講師（ICT業者、リクルート、総合探究型学習提案の外部講師）を招いて、適宜必要なテーマを設定し、全教員対象の講演を企画しました。また、個々が参加した教科指導等の研修について、参加者が職員会議で報告を行い、研修内容の共有を行って来ました。コロナ禍にあって、道外への研修会はオンライン参加となりましたが、次年度もこれらを継続して行います。

4. 生徒募集について

2016 年度から行ってきた入学者アンケートのデータが蓄積されています。分析とより一貫したテーマでの広報活動ができるよう引続き取組みます。ここ数年、本校と競合する学校が、戦略的に校舎改築、体育設備の充実や高大連携の取組みの強化、スクールバス運行などを行っています。戦略的に打ち出してきた本校の特色（「高大接続」「英語教育の強化」「校風」）も、新たに更新していかなければなりません。新型コロナウイルス感染防止のために学校説明会が例年のように催せませんでしたが、オンライン説明会や動画配信、人数限定の説明会の実施など工夫をして行いました。公立ではなく、私立学校に期待されている点を的確にとらえ、本校の教育活動の充実と共に、ニーズに応えられるように計画したいと思います。

5. 教育環境及び施設整備、財政について

1) 建物

外部にトイレの施設がないため、休日にクラブの練習試合等を見学に来られる外部の方が、校舎内のトイレを利用するケースがあり、防犯上課題となっていました。限定的に利用を許可すること（トイレまでの経路案内をすることで、使用箇所を絞る等）で対応することとしました。なお、今年度については、新型コロナウイルス感染防止のため、利用を禁止しました。

今年度は、放送礼拝など、放送室から音声を発信する機会が多くなりましたが、校舎の作りが複雑であるため、すべての教室に均質に音声を届けることが困難であることが分かりました。教室によっては工夫が必要なところもあります。

大きな校舎改築や講堂建設は財政的に手が届きませんが、他校の動きからも随分と遅れを取っているため、中長期計画（グランドデザイン）をもとに「総合グランド」を整備して、サッカーグランドだけでなく、生徒会行事の実施など多目的なニーズを叶えられるような施設の可能性も視野に入れて、整備の実現を次年度の開校 60 周年を機に委員会を設置し記念事業を探っていきます。

2) ICT 環境

校内で設置した「ICT 推進委員会」や教育アドバイザーの第三者の意見も聞きながら、タブレット PC の導入、各教室のモニターの設置、Wi-Fi 環境の整備を補助金も活用しながら段階的に行い、インフラを整備してきました。日常の教科指導の充実に加えて、校内業務では「校務支援システム」の導入を行いました。次年度は「Web 出願」の導入を行い、業務の効率化を目指し続けます。また、これらを有効に活用するため教員の研鑽を行いました。

3) 財政目標、財政改善の取組み

入試においては入学定員確保を目標として、3 学年で 100%を超えました。しかし、財政状況は厳しいままです。様々な工夫をしてきましたが、これ以上、教職員の労働条件や時間の負担を強いることはできません。知恵を出し合い研修と分析を続け業務の合理化と定員充足を目指します。

新入生から校納金の値上げを行い、収入面では若干の増収がありました。支出の面では、スクールバス委託業者の変更を行いました。新型コロナウイルス感染防止策として、密を避けるために大型バスを運行することになり、大幅な削減は実現できませんでした。経費の節約等、できる限りの対応は行いましたが、入学定員を確保できても赤字であるという経営体質を改善できるよう「奨学金の変更」を調査研究し、「スクールバスの運行方法の変更」は蓄積されたデータを分析しながら行います。

6. 高大連携及び地域連携について

このような社会情勢にあって、大学の学生や地域の方々との交流は行えませんでした。本校独自のオープンキャンパスや出張講義の活用なども、制限化の中で例年のように行えませんでした。大学の教職員の方々のご協力のもと、工夫し行うことができました。高校を選ぶ時

点で、大学の魅力をアピールしているため、その流れが上手く継続するように学校全体で検討します。

地域連携では、前述した北星局が、社会貢献活動として「フィリピンの教育支援」「社会困窮者支援」などを行い、新聞やメディアで取り上げられました。また、活動が制限される中でも、女子生徒が医療従事者に「フェイスシールド」や「手作りの入浴剤」の製造を行って、札幌市医師会に届けました。

コロナ禍にあることは、自分や家族の健康を守るのみならず、社会全体の問題として捉えることを呼びかけました。その言葉が上手く伝わっていれば、辛い1年でしたが、社会とのつながりを意識する上での体験となりました。

大雪の日の朝には男子バスケットボール部が中心となり、地域のバス停付近と通学路の雪かきを行ってくれました。困っている人に手助けをする生徒もあり、地域の方々から感謝の言葉を頂きました。

11月末のアドヴェント点灯式の際には、コロナ禍にあっても、地域の方々とこれからも共に生きていきたいという願いも込めて、約1,000発の花火を打ち上げました。事前に消防署から密になるため、地域への告知は最低限にして欲しい旨の依頼があり、隣の高齢者福祉施設のみに伝えましたが、暗い空に打ちあがる花火を眺める地域の方々、車を止めて写真を撮っている方々から多くの感謝の言葉を頂きました。

7. その他

5年前から第三者である教育アドバイザーからのアドバイスを受け、教育の質の向上、運営組織の改善、入試広報の戦略的な分析、財政面での課題発見などの改革に着手してきました。また、生徒へのアンケートなどを重ねてきました。どうしても過去の経験、近隣の私学や道の公立高校の動向に目がいきがちです。未曾有の時代において道外の私学など全国に視野を広げて研究をしなければなりません。また、教育業界のみならず様々な分野の専門家との連携やネットワーク構築も必要です。今後もこの意識を継続していきます。

おわりに

今年度は、新型コロナウイルス感染予防のための対策に追われました。今後、どのような形で収束していくのか見通しが立てられない状況の中で「With コロナ」を前提に、生徒達の教育活動を考えていきたいと思います。

振り返ると、欠けの多い教育活動でしたが、理解があり、協力して下さる保護者の方々に支えられてきました。そのような好意にいつまでも甘えるのではなく、教育機関として整えていかなければならない事柄が多くあります。課題として一つ一つを挙げて取組んでいきます。

本校は日常的に、特に繁忙期には教職員の熱意に支えられてきた面があります。その結果、ライフワークバランスが保てないケースや、健康を損ねるケースもあります。教職員の健康を守るために「働き方改革」にも着手していきたいと思います。与えられた生命、人生の時を犠牲にすることを神さまは望んでおられるのでしょうか。むしろ「必要なことはただ一つだけである」という言葉に耳を傾け真理を問い続けたいと願います。

今年度も保護者や地域の方々の理解と支援、生徒達の若さ溢れる情熱、大学をはじめ学園関係者の方々のお支えによって、一年の教育活動を過ごせたことに心より感謝申し上げます。本校の伝統を大切にしつつ、今後も時代の変化に即した教育活動、指導の在り方を模索していきます。

以 上